

東濃農林事務所の普及活動状況

令和5年7月

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■土岐市濃南の営農組織 法人化に向けた取組状況

管内では11の水田営農組織があり、現在10組織が法人化されている。そのような中、土岐市濃南の営農組織では、昨年度から法人化の意向が高まってきたため、農業普及課が仲立ちとなり、ぎふアグリチャレンジ支援センターの応援を要請しつつ、土岐市やJAとうとの関係者とともに支援体制を構築してきた。

関係機関による支援会議もこれまで4回開催し、法人化に向けたスケジュールの確認と具体的な支援策について、農地集積や補助事業導入、さらには新法人の定款や規約・経営試算案などの検討を行ってきた。これをもとに毎月の組合定例会での法人化の検討事項として提案し、設立に向けた準備を進めてきた。今後、農業経営者法人化等総合サポート事業を活用した専門家派遣も受けつつ、課題や改善事項を整理した上で法人化に向けた手続きをすすめ、本年中を目途に法人設立を目指すこととしている。



【法人化検討の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 新たな酒造好適米の栽培確立に向けて

瑞浪市日吉町の農業法人のほ場において、岐阜県中山間農業研究所が育成した新たな酒造好適米の試験栽培を行っている。昨年度に引き続き、日吉町の約37aの水田に試験ほ場を設置し、5月上旬に移植作業を行った。

同研究所中津川支所と連携し、毎月2回調査を行い、生育状況を確認しているが、7月上旬には最高分げつ期を迎え、病虫害の発生も見られないなど、生育は順調である。

7月10日には、新たに栽培を担当する農業法人も加わり、試験ほ場の生育状況を調査した。幼穂形成期に入っていたため、幼穂の状況を確認するとともに、あわせて穂肥施用時期の指導を行った。

美濃地域に適する酒造好適米として管内農業者の期待が高まっているため、今後も生育状況を把握するとともに、次年度に向けて栽培技術の確立を行っていく。



【試験ほ場生育調査の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■品目・指導対象等 べんがらモリブデン直播実証ほの設置

多治見市北部の営農組織では、令和4年度から高齢化や担い手不足に対応するため、省力化と低コスト化が可能で、山あいの狭小な圃場でも導入しやすい「べんがらモリブデン直播」の実証を行っており、2年目となる本年度は面積を拡大し検討を進めている。

調査の結果、圃場のぬかるみが少ないため作業がしやすく雑草の発生も少ないことがわかった。その他、7月までの生育は順調に推移していたが、同月下旬頃にいもち病が発生したことから、防除指導を行った。

今後は、収量調査や品質分析を行うほか、来年度からの本格導入を行うため補助事業を活用し機械導入を行う予定である。



【直近の生育状況】